

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079700201		
法人名	医療法人 上野病院		
事業所名	グループホーム あがの		
所在地	福岡県田川郡福智町上野2678-1		
自己評価作成日	平成 22年 6月 8日	評価結果確定日	平成22年7月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年7月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「ゆったりと、楽しく、自由に、ありのままに」をモットーに、その人らしく暮らしていけるよう、より良いケアを目指しています。  
・利用者スタッフの関係ではなく、ホーム全体を一つの家族と考え、喜怒哀楽を共有できるよう心がけています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福知山を背景とする長閑な田園風景が広がる中にグループホーム「あがの」は位置しており、木造平屋建て瓦葺の落ち着いた佇まいは、その広い敷地とともに周辺環境に溶け込んでいる。木の質感を多用した室内空間は明るく、広い廊下と機能的な設計が特徴的である。母体となる医療法人上野病院との充実した連携の中にあり、老人精神医療を専門とする施設長を中心として、日々の暮らしの中での健康管理の充実や、日常生活活動の維持・向上に向けた取り組みが行われており、入居者・家族の安心にもつながっている。また、家族や地域との交流の機会も充実しており、老人会や近隣小学校とのふれあい交流、ホームの行事にも多くの家族や地域の方々の参加があり、盛況に開催されている。活き活きとした職員による柔軟な対応の中で、入居者の方々の穏やかな暮らしが営まれている。

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の		65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある		66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が		67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が		69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が		70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念をもとに利用者の個性を大切に、自由にその人らしく支援している。また地域の中で暮らし続けていけるように努力している。	開設時の理念を職員全員で見直し、地域密着型サービスとしての役割を明確に示した理念が掲げられている。入居者一人ひとりの方々の持てる力を発揮できるよう支援すること、また家族や地域との関係性の継続、地域住民としての役割を担っていくことが明記されており、実践に向けた取り組みが行われている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は常日頃から、礼儀正しく友好的な態度で、隣近所の方と接している。また、ホームの行事などに参加を呼びかけ、交流を持っている。近所の方が野菜を持ってきてくれることもある。	散歩や買い物に出掛けた際には、地域の方々と気軽に挨拶を交わしている。老人会に加入し、共に活動を行い、ホーム行事も総会資料で紹介されている。回を重ねるごとにクリスマス会や夏祭りは地域に密着し、大勢の方で賑わっている。近隣の小学生との交流も、豆撒き、七夕等の行事を通じて行なわれており、定着している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部向けのあがのだより(高齢者のかかりやすい心の病、成年後見制度...など)を発行している。また、運営推進会議などでホームの現状を報告している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規則を作り、2ヶ月に1回定期的に会議を行っている。また、会議での意見をサービス向上に生かす努力をしている。	会議規則が作成され、定期的(奇数月)に開催されており、状況・活動報告、防災訓練等が討議されている。老人会会長より、積極的な発言もあり、特に防災についての活発な意見交換の場となっている。	「非常時は老人会も協力します。」「災害時には地域の方もホームを利用されては、と具体的な意見交換が活発に行われている。今後はメンバー構成の多様化も含め、ネットワークを広げながら、地域における福祉拠点として、情報発信等の取り組みにも期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外に、福智町介護保険係の係長と連絡を取り、グループホーム協議会を開催している。(月に1回)	福智町介護保険課との連携により、毎月1回、グループホーム協議会を開催している。地域の17事業所が集まり、新人育成も合同で行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、身体拘束の廃止に取り組む努力をしている。夜間など安全が確保できない時は、施錠をしている場合もある。	マニュアルを使用し、ミーティング時に話し合いを行ったり、自己評価時に振り返りの機会を持ちながら、身体拘束についての概念を共有している。特に「言葉による拘束」について等、日常の中での拘束について、意識を高める取り組みが行われている。玄関の施錠は夜間のみであり、一般家庭と同様と捉えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・テレビや新聞などで虐待の報道があった場合など、職員全員で話し合いの機会を作っている。 ・虐待防止のマニュアルを作り学習会を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを作りミーティングで学習会を行った。 7月に成年後見制度についての学習会があるので参加を予定している。	現在、成年後見制度を活用している方もおり、権利擁護に関する制度について、研修計画に盛り込みながら、職員全員の理解を深めるよう取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ場合には、前もって十分な説明が出来る時間を作り、不安や疑問がある場合はわかりやすく何度も説明している。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置し、利用者がなんでも話しやすい雰囲気作りに努めている。	担当者名を部屋の入口に掛け、相談しやすいよう配慮している。家族からも迅速な対応について好評を得ている。苦情相談窓口も設置されているが、何よりも話しやすい雰囲気づくりや、何気ない会話の中での気づきを大切にしている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長・管理者は、話しやすい雰囲気を作り、職員の意見が出やすいように努めている。また、その意見を反映出来るよう努力している。	毎朝行われているミーティングにおいて、職員の意見を聞く機会を設けている。施設長・管理者は意見の表出しやすい雰囲気づくりに努め、またベテラン職員が間に入りながら、提案事項や相談しやすい環境づくりに努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の習得(介護福祉士他)などで免許手当をつけている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在採用している職員は、20代～60代で幅広く、昨年は、男性1名も採用した。今後性別や年齢制限などは考えていない。また、個人個人を尊重し、生き生きと勤務できるように配慮している。	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。職員は全員常勤採用となり、研修や資格取得の機会も年間計画で明示されている、個人のスキルアップも、自ら到達目標が設定出来るよう取り組んでいる。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会の資料を配布し、参加を呼びかけている。また、希望があれば、優先して休日を与えている。	入居者の人権を尊重する事は、ホームの基本であり、特に採用時の倫理教育を大事にしている。また外部研修の資料をもとに伝達講習を実施し、幅広く人権について考える機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上野病院、グループホーム協議会、社会福祉協議会、広域連合などの研修会に参加や参加予定をしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	H20年7月より、福智町グループ協議会を発足。月1回会議を開催している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の希望があった場合は、体験入居を勧め、本人と面談の機会を多く持つようし、本人を理解する努力はしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の希望があった場合は、家族の求めていることを理解するために、話し合いを多く持つよう努力している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた上で、本人にとって自宅や他の介護サービスが必要な場合はそちらを勧めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者とコミュニケーションをとりながら、家事や会話を通じて一緒に学ぶ機会を作り、支えあう関係を築いている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時、利用者さんの状況を話す機会を多く持ち、本人を支えていく関係を築いていけるように努力している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意向を良く聞き、昔行っていた馴染みの店や病院などに、希望に沿って連れて行っている。	ホームの夏祭り等、行事の際には、地域の友人や知人との触れ合う機会を大切にしている。居室には行事や日常の写真を綴ったアルバムが置かれ、家族への話題の提供にもつながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士トラブルを起こすこともあるが、その都度、職員が上手にフォローしている。居間に集まりテレビ見たり、玄関に飾る貼り絵の作成をしたり、体操をしたりと団樂を楽しませられている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、時々電話をしたり、近くに行ったときは顔を出すなどして関係を継続している。また、ホームの行事には参加の呼びかけを行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との関わりを多く持ち、本人の思いや希望を理解できるよう話を聞く努力をしている。	センター方式を活用して、生活歴、1日の過ごし方、好きな事・嫌いな事等、アセスメントを実施し、また家族からの情報や、日々の暮らしの中で希望や思いの把握に努め、記録に残している。担当者会議においても、情報の共有が行われている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の訪問時間に、出来るだけ話を聞く機会を作って、生活歴や昔話を聞くよう努力をしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの情報シートなど作成し、現状の把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン見直しの時に担当者会議の開催を行い本人を含め話し合いの場を作っている。家族の参加は難しかったが、訪問時話を聞きプランに反映できるように努力した。	介護計画は本人や家族の要望を聴き、居室担当者を中心として職員の意見を参考に立案されている。センター方式を用い、入居者のQOLを高め、実行可能な計画内容になっている。3ヶ月毎に担当者会議、モニタリング、見直しが行なわれている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護記録に日々の様子や、気づきを記入しスタッフで共有している。また、その記録を参考に介護計画の見直しに生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとしての特徴を活かし家族や利用者の希望に沿えるように買い物、通院介助、外出など柔軟な支援が行えるよう努力している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力や、警察の巡視、小学校との交流など積極的に行っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望は大切に、安心して医療が受けられるよう支援している。	本人・家族の意向を大切に、適切な医療活用となるよう支援している。施設長は老年精神医学の専門医であり、日々の暮らしの中でのふれあいを通じて入居者の方々の健康状態を把握し、本人・家族の安心にもつながっている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者さんの変化や気づいたことを看護師に報告、相談し指示を仰いでいる。また、看護師は必要に応じて、主治医に連絡を取り指示を仰いでいる。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合、本人が安心して治療を受けられるよう度々訪問し、医者、看護師などと、情報交換に努めている。また、退院後のホームでの受け入れも、担当者を含め全員で話し合っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いの場を持っている。必要に応じては、かかりつけ医と話し合いを行い、スタッフ全員で方針を共有している。	入居時に、重度化や終末期の対応指針について説明を行っている。本人や家族の思いを尊重しながら、ホームの考え方、母体病院や主治医との関わり、看護職との連携等、具体的な記載がなされており、共有しやすい内容になっている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・ビデオやマニュアルを作成いつでも見れるようにした。 ・学習会や訓練は出来なかったが、必要に応じて看護師から指導を受けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・ホーム内での避難訓練は、随時行っている。(秋は消防署の協力を得た) ・福智町の消防団に連絡を取り協力をお願いした。	夜間を想定しながら、定期的に春・秋の避難訓練が実施されており、消防署や消防団の協力も得ている。落雷による全面停電の経験も活かし、非常食の準備や、非常時の持ち出し品も携帯可能なりュックに用意されている。スプリンクラーは設置済みとなっている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言動は慎むようにしている。	生活歴や家族からの情報、日頃の関わりの中から、入居者一人ひとりの大事にしている事や嫌な事の把握に努めている。排泄時のさりげない誘導や、失禁時の対応も誇りを損ねないよう配慮している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日頃から入居者が自分の思いを話しやすいような環境を作っている。 ・重度の認知症の方には、短い言葉や分かりやすい話し方に気を配り、本人の思いをくみ取るように努力している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、その人の暮らしに合わせて、出来るだけ希望に沿って支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・希望する時に、望む所へ連れて行っている。 ・身だしなみやおしゃれは、本人の個性を大切に、さりげなくアドバイスや相談に乗っている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望されない方には無理強いはいしないが、本人の能力に応じて食事の準備や後片付けなど一緒にしている。	食事の前にはエプロンを着けて、準備に参加する方もおり、その日の気持ちを汲み取りながら、味見等を手伝ってもらっている。職員も同テーブルで同メニューの食事を楽しんでいる。クリスマス会ではホームの食堂が寿司屋のカウンターに変わり、寿司職人による出張サービスにより、それぞれの方が好きなものを握ってもらい、大盛況となっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の体調に合わせ必要な栄養、水分は取れるようにしている。食欲の低下している入居者に対しては、好みの食事、希望する時間、回数を増やすなどの対応をとっている。		

福岡県 グループホーム あがの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きの声掛けを行っている。自分でできない入居者は介助を行い、口腔内の清潔に気を付けている。また、必要に応じて歯科受診も受けている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄パターンの習慣をキャッチし、見逃さず気持ちよく排泄できるよう支援している。 ・常にトイレでの排泄を心がけている。	失禁時の対応等、プライバシーへの配慮を心がけながら、排泄の自立へのアプローチが行われている。排泄パターンの把握、また一人ひとりのサインを見逃さないようにしながら、トイレ誘導を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分の管理、食べ物、運動などに気を付け、予防に努めている。 ・食事は繊維質のものを多く使い、消化の良いものを提供している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望する時間に、気持ちよくゆったりと入浴できるよう必要に合わせ介助を行っている。汚染があった場合はその都度対応している。(浴室、浴槽は常に清潔にしている)	2日に1回の基本的な入浴日の設定はあるが、一人ひとりの希望や状況、生活習慣等に柔軟に対応している。個浴用・介助用と、2つの浴室があり、浴室には暖房設備も設けられており、快適で安全な入浴支援に努めている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠のために嗜好品の提供や、雰囲気作りに努めている。不眠を訴えてきた入居者に対しては話を聞いたり、お茶を勧め安眠できるように働きかけている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については大まかには理解しているが、詳細については説明書を参考にしている。説明書は、個人記録に綴じている。新しく服用する薬については管理者(看護師)から作用についての説明と注意を受けている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内のリハビリ体操、貼り絵、買い物など思い思いの生活が楽しめるよう支援している。		

福岡県 グループホーム あがの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候やその日の状況に合わせて、散歩、花見、ドライブなど戸外に出かけている。今年は日帰り旅行を予定している。</p>	<p>入浴日を避けて、ユニット毎に交代で散歩や買い物に出かけている。本人の希望により、実家へ同行することもある。</p>	<p>少しずつ重度化が進む中で、入居者が外出を希望することも少なくなってきた。限られた人員配置の中ではあるが、広大な敷地内を活用した外気浴等、一人ひとりの希望や状況にあわせた工夫に期待します。</p>
52		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理が可能な入居者は、自己管理をしている。出来ない入居者に対しては、家族に協力してもらっている。また、買い物に同行し間違えないように支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話は本人の希望通り、いつでも使用できるようにしている。家族から電話の少ない入居者に対しては、こちらから電話することを勧めスタッフが代行している。手紙の宛名書きの代筆も行っている</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>日頃から常に清潔に配慮している。貼り絵や花を飾り、季節感を感じさせるように工夫している。</p>	<p>玄関には、季節の花や入居者の方々の手作り合同作品(貼り絵等)、近郊の小学生による七夕飾りがあり、来訪者を歓迎している。木の質感を多用した室内は、温かい雰囲気にも包まれており、明るく清潔感がある。柔軟性のある間取りや、和室スペース等、居心地よく過ごせるよう工夫されている。広い廊下や入居者専用洗濯スペース等、心身の機能維持につなげる工夫がある。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間にコタツやソファ、テレビを設置し、利用者が集まりやすいよう工夫している。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の協力を得て、馴染みのある布団やタンスなど設置し、本人が安心して過ごせるように工夫している。</p>	<p>各居室の出窓からは、季節毎に変化する山々や田園風景が楽しめる。ベッド・テーブル・椅子は備え付けとし、その他家具類は使い慣れた馴染みの物が使用されている。また希望によって畳を用いてこれまでの生活の延長とし、また、個々の状況に応じた工夫を行いながら、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、居室など目印を付け本人に分かるように工夫している。</p>		